

10. 医療連携部

はじめに

当院の医療連携部は、医療連携部長の下、①地域医療連携、②医療相談、③企画広報の3部門が置かれ、医師、看護師、MSW、事務職員によって構成されている。3部門には、それぞれ室長が置かれ（いずれも併任）、協力して業務の運営にあっている。3部門の業務はそれぞれ、①他医療機関からの紹介患者さんの受け入れ及び当院退院後の医療の継続支援、②各種医療相談、③病院広報誌の発行やホームページの運用管理、公開講座の開催支援を行っているが、それぞれの部門の仕事が相互に重なっており、医療連携部一体となって上記業務を行ってきた。

2020年11月には入退院支援センターが開設され、現在4診療科(整形外科・外科・心臓血管外科、脳神経外科)の入退院支援を行っている。

なお、当院は「地域医療支援病院」、「がん診療連携拠点病院」としての機能を付与されており、この機能を継続していくためには、一定以上の紹介率・逆紹介率の確保、医療機器の共同利用、共同診療病床の確保、相談窓口の設置、がん情報の提供、がん相談、病病連携・病診連携の構築など達成しなければならない条件がいくつか存在するが、その多くは、医療連携部が現在担っている業務に属している。その意味で、医療連携部は当院の営業を支えている部門と言える。

また、地域医療連携システムの金鯢メディネットは、インターネット上で連携施設のパソコンから当院のカルテや画像などが閲覧できるシステムであり、その利用施設数は2021年3月末で91施設（診療所54、病院17、訪問看護3、薬局17）となっている。

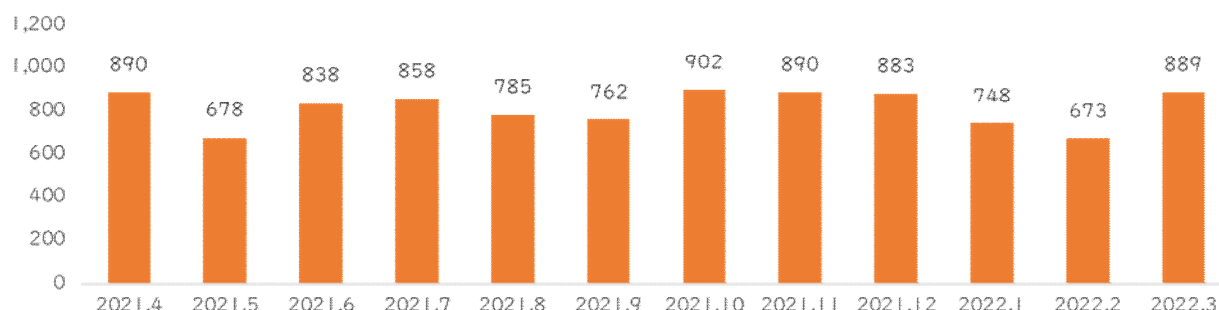
以下に、医療連携部における2021年度の実績を記述する。また、院内外で実施されている研究会・研修会の一覧もここに付記する。

2021年度は2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったが市民公開講座をはじめ、様々な研修会・研究会について感染対策を行った上で開催した。

地域医療連携室

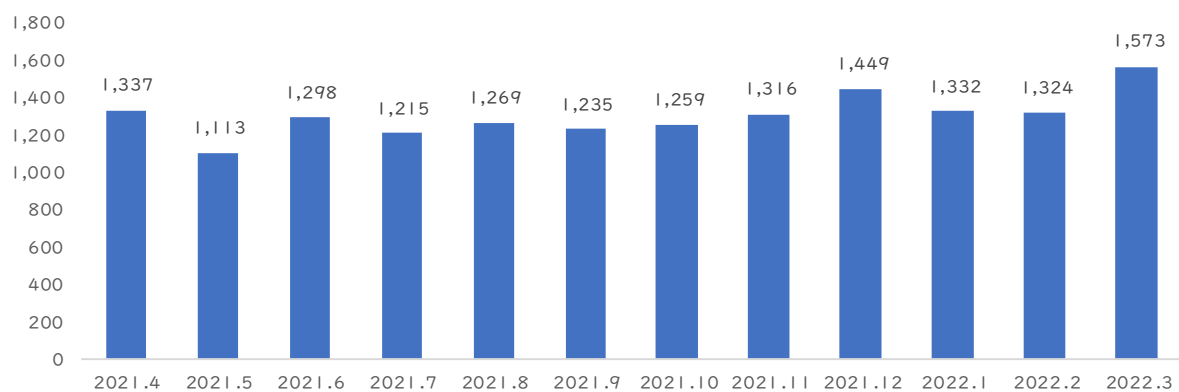
1. 医療連携実績

1) 2021年度の紹介患者数の推移を示す



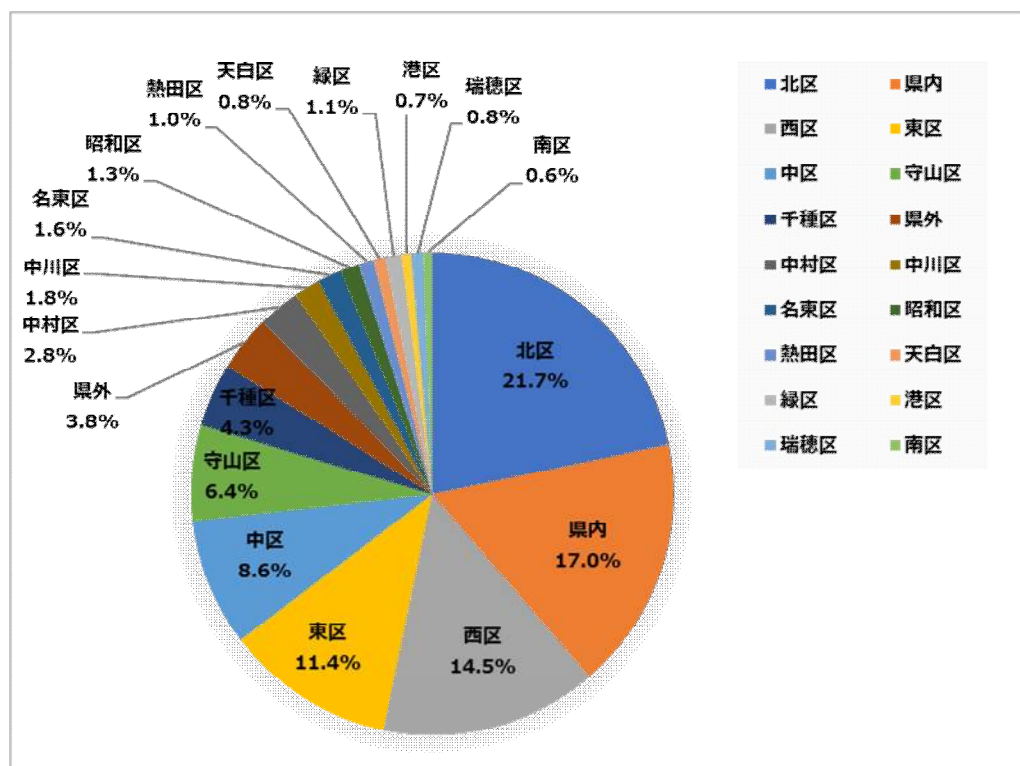
紹介率 84.7%

2) 2021 年度の逆紹介患者数の推移を示す

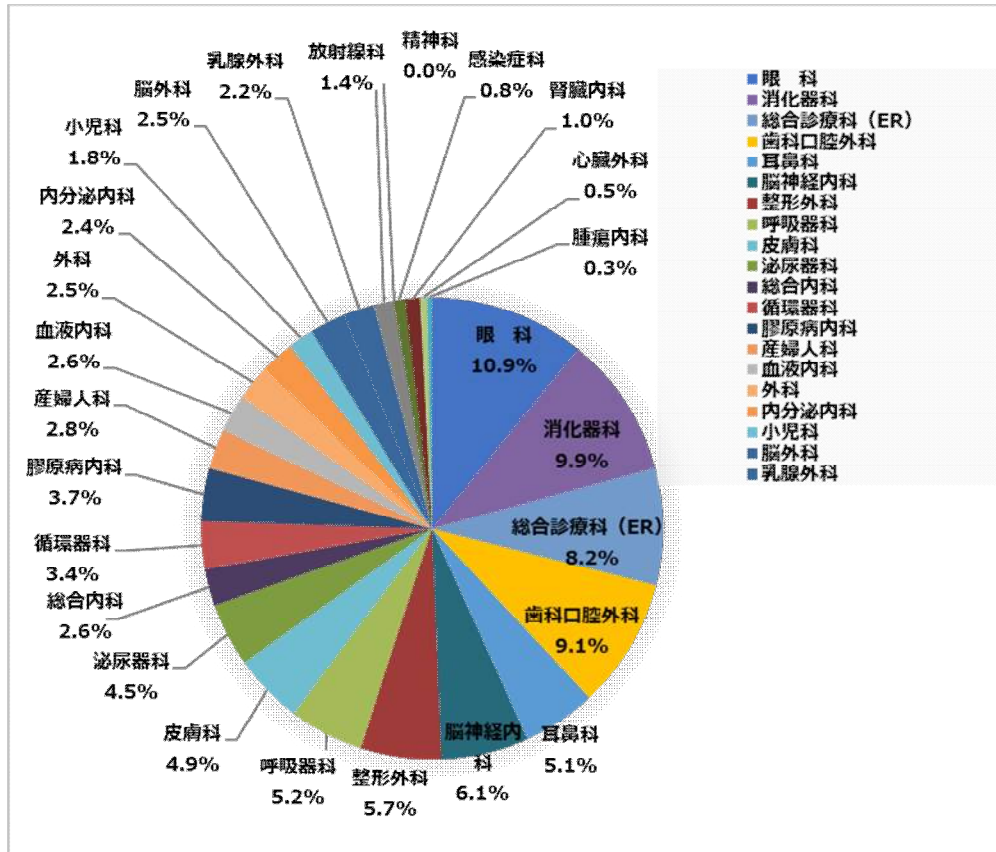


逆紹介率 135. 1%

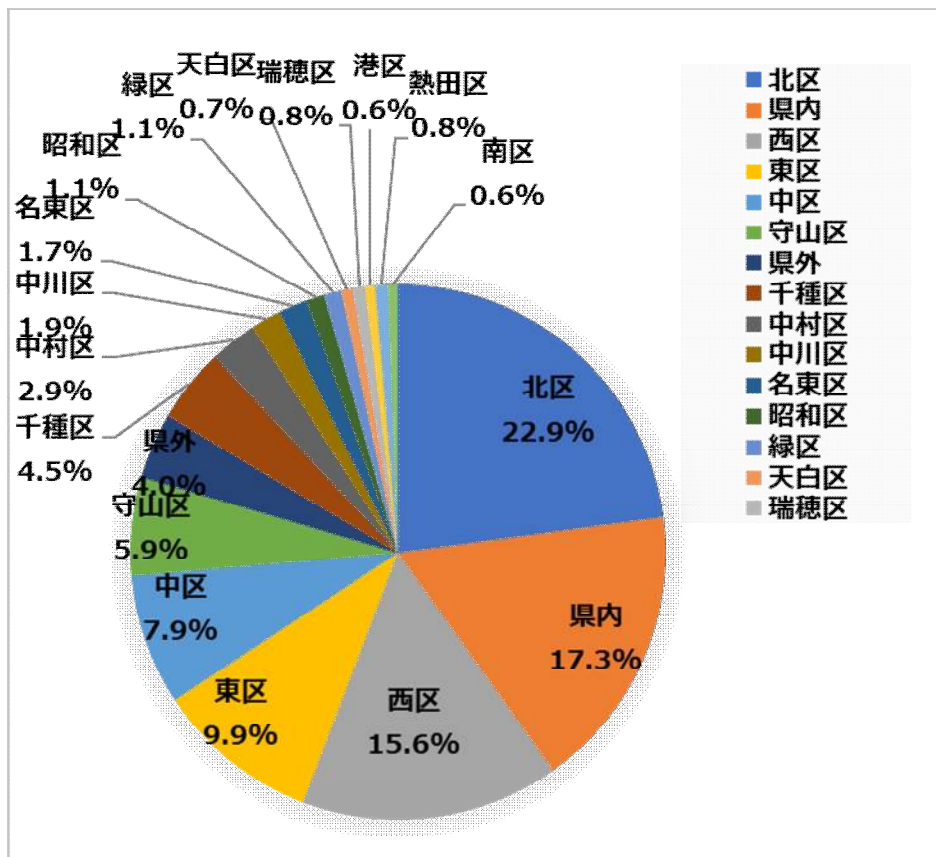
3) 紹介患者の地域分布を示す



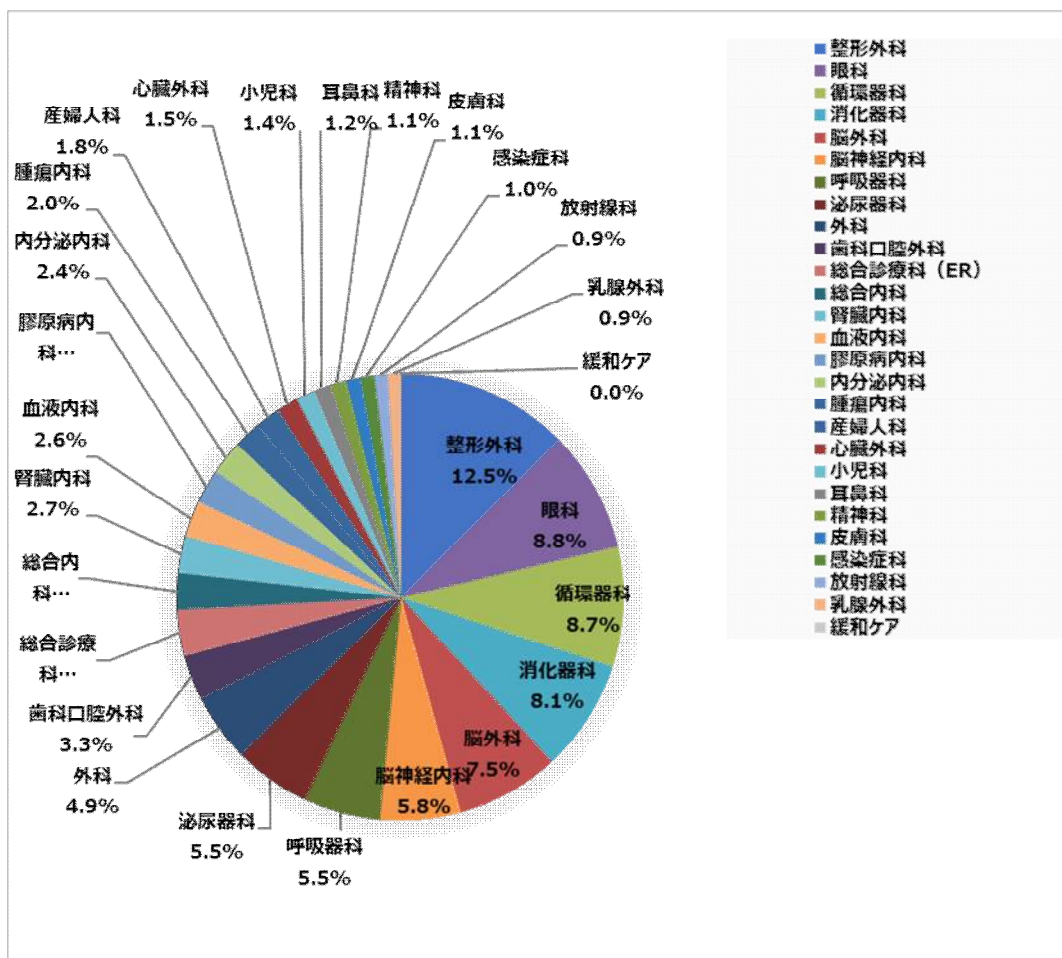
4) 紹介患者の紹介先診療科分布を示す



5) 逆紹介患者の地域分布を示す



6) 逆紹介患者の紹介元診療科分布を示す



7) 共同診療

当院では、名古屋市医師会病診連携システムの登録医と当院医師による共同診療及び指導を目的とした専用病床（開放型病床）を5床設置している。

○2021年度の開放病床利用による共同診療件数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院患者実数(人)	2	0	0	0	2	0	1	1	1	0	1	0	8
入院患者延数(人)	25	6	0	0	17	1	3	20	10	0	7	0	89
開放病床利用率(%)	16.6	3.9	—	—	11.0	0.7	1.9	13.3	6.5	—	5.0	—	4.9

8) 共同機器の利用

○2021年度の大型機器共同利用件数

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
MRI	5	4	6	2	4	3	5	4	7	5	5	5	55
CT	11	6	6	13	8	3	6	11	8	7	6	6	91
SPECT	4	2	3	5	4	4	3	4	2	3	1	1	36
PET-CT	3	0	1	1	1	2	2	1	2	3	1	2	19
合計	23	12	16	21	17	12	16	20	19	18	13	14	201

2. 地域連携クリティカルパス会議

(大腿骨頸部骨折) ※計画策定病院合同で開催

2021年10月14日(水)15:00~16:00 Web形式方式で開催。

(脳卒中)

2021年10月20日(水)15:30～17:00 Web会議形式で開催。

3. 名古屋市医師会病診連携システム運営協議会

2021年9月8日(水)に定例の病診連携システム運営会議をweb会議形式にて開催した。

議題

1. 2020年度病診連携システム実績報告
2. ITと地域連携
3. その他

4. 医療連携交流会

院内外での医療連携促進を目的に講演や意見交換会を行う交流会。2021年度はコロナウイルス感染拡大の影響で中止。

5. 地域医療支援病院運営委員会

今年度は4回の定例の地域医療支援運営委員会をweb会議形式にて開催した。

○第一回 Web会議にて開催

日時 2020年5月12日(水) 14:00～15:00

場所 名古屋医療センター 管理棟5階 第1会議室

○第二回 Web会議にて開催

日時 2021年9月8日(水) 14:00～15:00

場所 名古屋医療センター 管理棟5階 第1会議室

○第三回 Web会議にて開催

日時 2021年11月10日(水) 14:00～15:00

場所 名古屋医療センター 管理棟5階 第1会議室

○第四回 Web会議にて開催

日時 2022年2月9日(水) 14:00～15:00

場所 名古屋医療センター 管理棟5階 第1会議室

6. 研修

2021年度研修・協議会・検討会等開催状況

研修・協議会・検討会が感染対策を行った上で開催されたが、一部の会議でコロナウイルスの影響により中止となった。

2021年度 研修・協議会・検討会等開催状況

会 議 名	開催回数 (年間)	登録医等参加者			院内参加者			その他 (市民等)	
		小計	医師	医師以外	小計	医師	医師以外		
市民公開講座(シンポジウム)	1							82	
地域医療連携web意見交換会(各症、診療科web相談、web講演会)	5	114	104	10		27	16		
HIVカンファランス									コロナの影響で中止
HIV研修会	1	19	4	15	18	5	13	7	
乳腺症例検討会	7				94	42	52		
胃腸疾患検討会	20				360	340	20		
名古屋市救命救急士研修会									コロナの影響で中止
病院での在宅医療研修会									コロナの影響で中止
緩和医療研究会									コロナの影響で中止
緩和ケア研修会	1				22	22			
放射線療法・化学療法に関する研修会									コロナの影響で中止
肝・胆・膵疾患検討会	20				360	340	20		
マンモグラフィ読影講習会	2	120	120		3	1	2		
愛知県乳がん検診研究会	4	102	17	85	20	7	13		
乳腺超音波講習会	2	67	33	34	9	7	2		
マンモグラフィ技術講習会	1	29	1	28	2	1	1		
マンモグラフィ技術講習会	1	29		29	3	2	1		
合 計	65	480	279	201	891	794	140	89	

7. 金鯨メディネット

インターネットを利用した地域医療連携の運用を行っている。

このシステムでは参加登録された医療機関において当院の電子カルテや画像を閲覧できるシステムであり、地域の診療所等との連携を図っている。

○金鯨メディネット登録施設数（2022年3月末現在）

・98施設（診療所 59、病院 17、訪問看護 3、薬局 18）

○金鯨メディネット意見交換会

・新型コロナウイルス感染症拡大のため開催中止

8. 金鯨友の会

「金鯨友の会」と名付けて、職員との交流や親睦を図るとともに医療、保健などの新たな情報発信の会を設け、主に会員の方を対象にした講演会・勉強会を開催している。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、講演会・勉強会を中止した。

企画広報室

1. 市民公開講座

2021年度は名古屋市内3機構病院合同市民公開講座（名古屋医療センター・東名古屋病院・東尾張病院）を新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となった。

2. 広報誌の発行

2021年度は6回発行し、患者さん及び連携医療機関へ情報発信をした。

発行号	発行月	巻頭言	ドクターよもやま話	現場紹介		トピックス	医療最前線	連携医紹介
第100号	2021.5	『安心して受診していただくために』 副院長 竹田 伸	『つらくない気管支鏡検査』 呼吸器内科部長 沖 昌美	—	—	新任医師紹介	『入院支援センターとは』 地域連携連携・患者支援センター長 高田 貴明	医療法人社団AOI名古屋病院 院長 三島 保彦 医療法人 済生会 済生会病院 院長 川崎 博孝
第101号	2021.7	『ポリファーマシーについて』 薬剤師長 中井 正彦	『健診とトマトとばら』 腫瘍内科部長 片山 雅夫	中央手術室	公選選	『新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策チーム』	『遠隔医療の現状～遠隔診療について～』 遠隔診療科部長 藤部 達也	社会福祉法人 尾張物産 済生会 愛知県済生会リハビリテーション病院 院長 田内 直生
第102号	2021.7	『AIと医療』 結核診療部長 片岡 政人	『診療と居宅介護併用』 麻酔科部長 富田 聡	東9階診療	CRC室	『認知症ケアチームの活動について』	『認知ケアとは？』 認知ケア内科部長 岡本 美幸	医療法人 陸山会 鶴岡リハビリテーション病院 理事長兼病院長 鶴岡 泰光
第103号	2021.11	『新型コロナウイルスと子ども』 副院長 富田 保志	『心臓・血管疾患の画像診断』 心臓血管外科部長 森田 修明	管理課	外来1階	—	『来院への対応で認知症を予防しよう』 耳鼻いんこう科・耳鼻咽喉科部長 佐藤 良昭	一般財団法人 名古屋労働サービス事業団 名古屋市中区鶴岡町若菜ステーション 所長 水野 正代
第104号	2022.1	『新年のご挨拶』 院長 長谷川 灯規	『医師の働き方改革』 腎臓内科部長 中村 智博	相談支援センター がん相談支援センター	中3病棟	『災害訓練を実施しました』 災害対策室長 森野 祐	『HPV(ヒトパピローマウイルス) ワクチンについて』 産婦人科部長 中野 貴	医療法人 陸山会 大須病院 院長 佐藤 泰正
第105号	2022.3	『医療コミュニケーション2つの大きな変化』 新幹線部長 内山 浩	『コロナ禍の運動不足による 「ロコモ」』 リハビリテーション科部長 整形外科部長 渡部 隆介	放射線診療科 放射線治療科	外来2階	『心臓まる支援をいただきました』 副学部長 寺西 正美	『名古屋医療センターのHIV検査』 エイズ統合診療部長 エイズ診療科部長 橋本 敏行	医療法人 青田クリニック 院長 青田 淳

医療相談室

1. はじめに

2021年度は院内の組織改編により地域医療連携・患者支援センター部医療相談室としてスタートした。瀬口、橘に加えて、4月より野原が非常勤として新規採用され、ソーシャルワーカー3名、中江（非常勤）伊藤（非常勤）早川（非常勤）事務員3名の総勢6名の体制となった。また、がん診療連携拠点病院の相談支援センターとしてがん相談支援センターも併設しており、花木がん疼痛緩和認定看護師とも連携をして業務をおこなっている。

医療相談室では、がん患者や緩和チーム介入患者、虐待やDV（疑い含む）、精神疾患、周産期等MSWの専門的な技術をより必要とする患者の担当を行った。個別援助業務においては、退院援助・支援が大半を占めており、患者、家族の社会的背景、問題も複雑化かつ多様化し、退院援助にかかる時間や労力も増大傾向となっている。平均在院日数の短縮化も求められる中、MSWのみでなく多職種と連携しながら退院支援していくことがさらに重要と考えている。新型コロナウイルスの影響で、入院をすると面会制限があることから、自宅療養継続を希望する方が多く、外来での療養支援も増えた傾向があった。病棟集約や新型コロナウイルスの影響で入院患者の減少により、ケース数は減少している。

またがんサポート活動の業務も行っており、平成27年度より地域活動として名古屋市療養サービス事業団が公益事業として運営する「まちかど保健室」にて出張がん講座の企画、がん治療体験者による療養相談会の開催、がん患者・家族を対象にした学習会の企画・開催、緩和ケア週間のイベントの企画運営、療養と就労の両立支援を図るための社会保険労務士と共同した就労支援相談会の企画・開催を行っている。今年度は「まちかど保健室」の4回、就労支援相談会1回、ピアサポーターによる療養相談会1回を開催、緩和ケアイベントは内容を縮小して開催をした。

相談支援センターの周知・広報のため、昨年度に引き続き、社会福祉協議会が発行する広報誌「ふれあい名古屋」に当相談支援センターの案内を掲載し、地域への広報活動も行った。やすらぎサロンの活動状況やがん関連の情報などについて、年2回「やすらぎ通信」という形で広報誌も発行した。

がん地域連携パスの運用について、フローの見直しや院内への周知を行い、運用件数増加につながった。

2021年度の具体的な業務の取り組みについては、以下報告する。

2. 業務報告

1) 報告にあたって

2021年度における医療社会事業業務は当院の「医療社会事業運営要領」に基づき、医療社会事業委員会において審議・決定された「医療社会事業業務指針」および「ソーシャルワーカーの業務基準」、さらに平成14年11月29日に健康発第1129001号をもって発せられた厚生労働省健康局長通知「医療ソーシャルワーカー業務基準」を根拠に行ったものである。

報告のかたちについては、「業務基準」に照らし合わせ整理して列挙した。

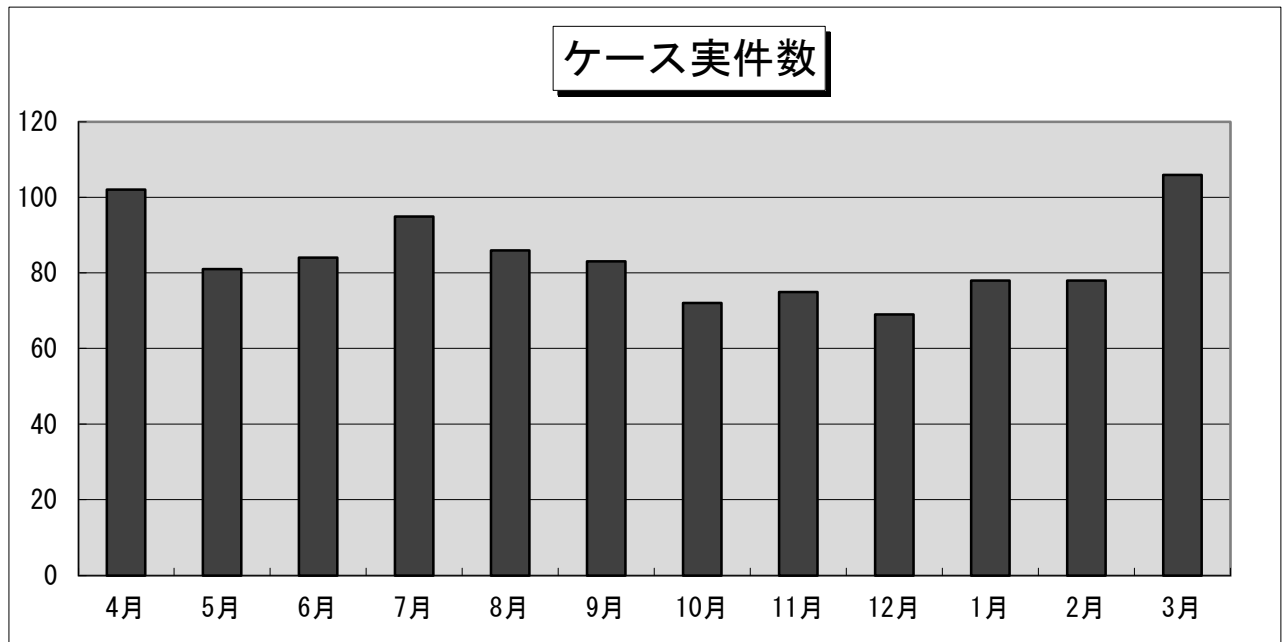
2) 個別援助（ケースワーク業務）

MSWの主要業務である患者や家族に対する個別援助業務について、本年度の状況を概観してみた。

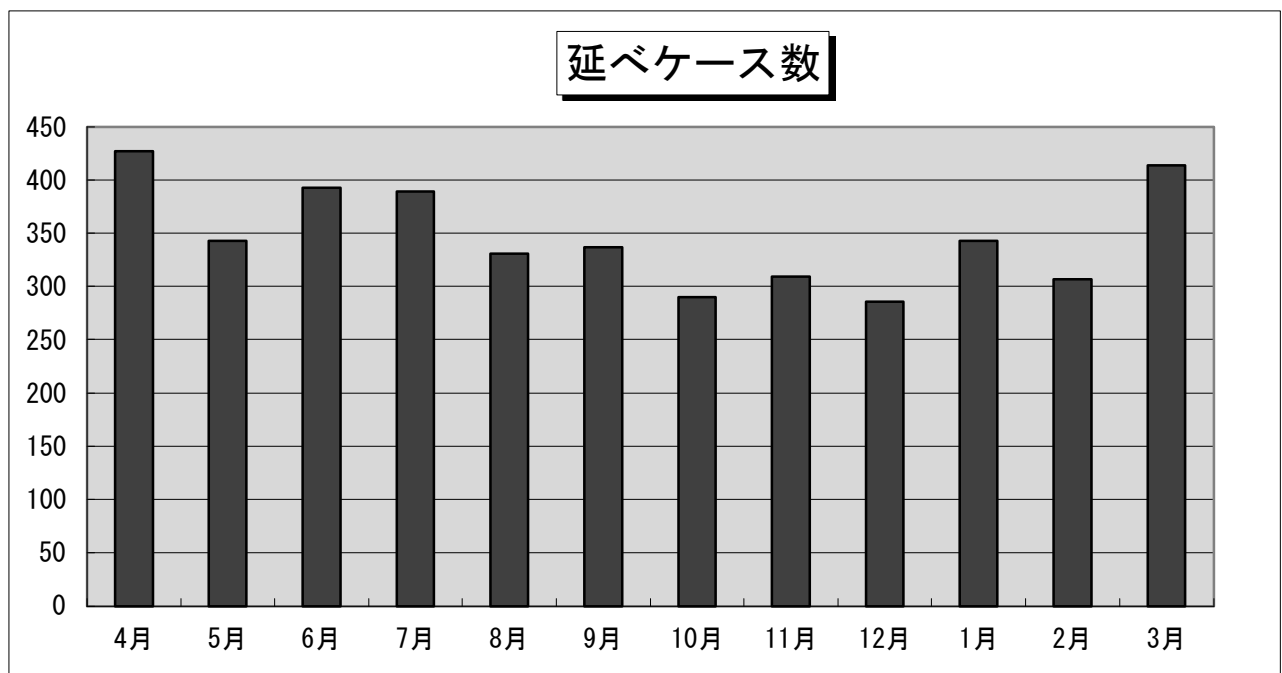
① 実ケース及び延べケースの月別件数

実ケースとは、その月に実際に取り扱ったケース数であり、延べケースとは、そのケースについて何らかの措置を行った日数の積算である。

2021年度は全体で、実ケース数が1009件、延べケース数が4169件。



	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2021 年 度	102	81	84	95	86	83	72	75	69	78	78	106	1009



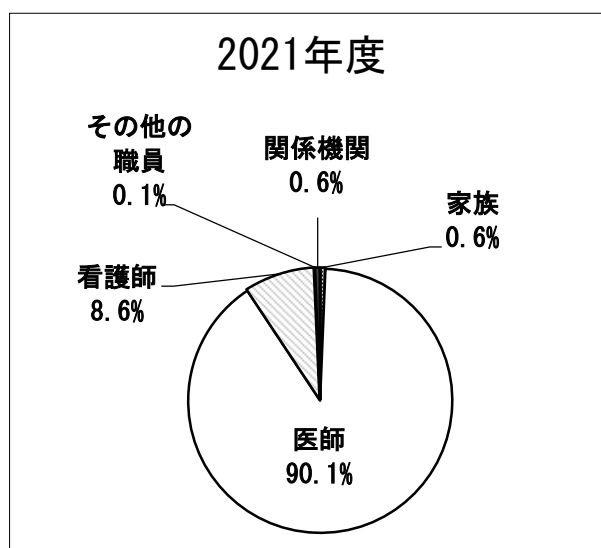
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2021 年度	427	343	393	389	331	337	290	309	286	343	307	414	4169

② 実ケースの紹介者別件数

実ケースの「紹介者」とは、ワーカーがケースを受け付けた直接の相手方と定めている。例えば、医師の意思を受けた看護師がケースを紹介してきたときでも、特にことわりがなければ紹介者「看

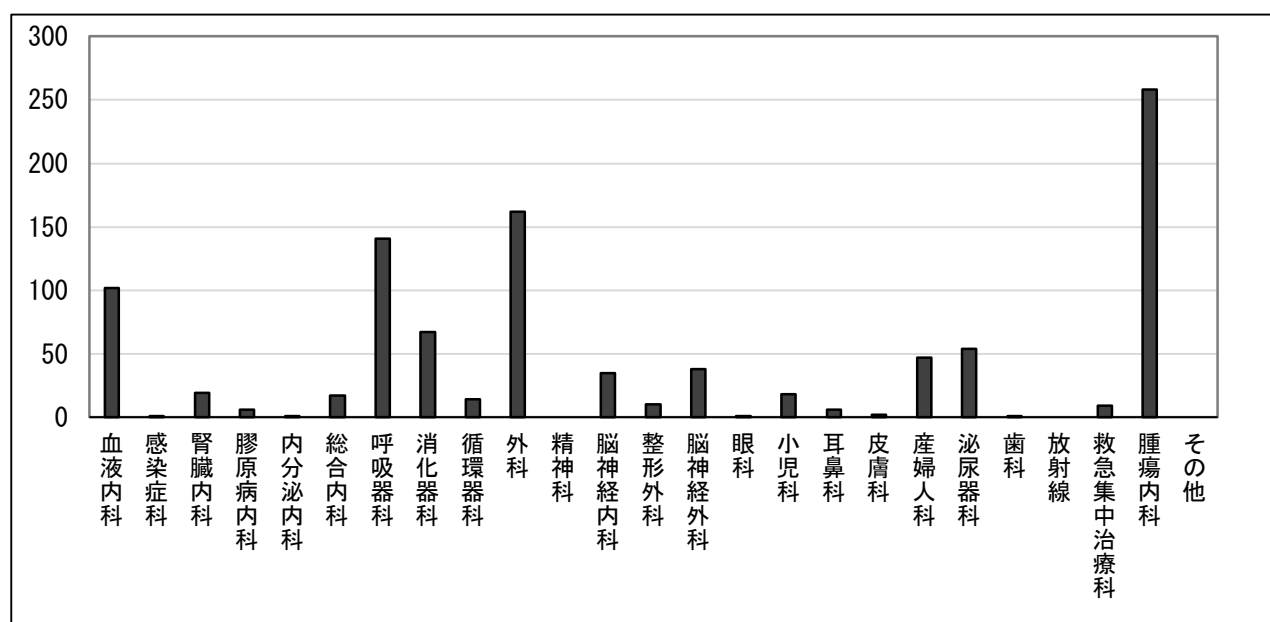
護師」となる。従って、医師・看護師からの紹介は両者の合計数によって判断されるならば幸いである。今年度も医師・看護師からの紹介は約98.7%と高値を示している。
 ※「関係機関」とあるのは、福祉事務所、保健所などを主として、福祉に関する役所や施設などをいう。

	2021 年度
本人	0
家族	6
医師	909
看護師	87
その他の職員	1
関係機関	6
他の医療機関	0
その他	0
合計	1009



③ 実ケースの診療科別件数

腫瘍内科、外科、呼吸器科の順に多く、この3診療科で全体の約55%を占める。

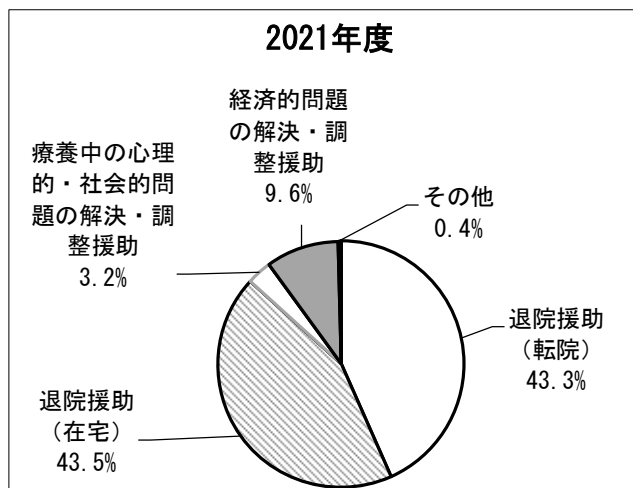


	血液内科	感染症科	腎臓内科	膠原病内科	内分泌科	総合内科	呼吸器科	消化器内科	循環器科	外科	精神科	脳神経内科	整形外科	脳神経外科	眼科	小児科	耳鼻科	皮膚科	産婦人科	泌尿器科	歯科	放射線治療科	救急集中治療科	腫瘍内科	その他
2021年度	102	1	19	6	1	17	141	67	14	162	0	35	10	38	1	18	6	2	47	54	1	0	9	258	0

④ 実ケースの内容別件数

ケースの内容を「医療ソーシャルワーカーの業務基準」の分類によってまとめると下表のようになる。相談内容は、ここ数年来の傾向通り、退院援助（転院・在宅）が全体の約8割以上を占めた。

	2021 年度
退院援助（転院）	437
退院援助（在宅）	439
受診・受療援助	0
療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	32
社会復帰援助	0
経済的問題の解決・調整援助	97
その他	4
合計	1009



⑤ 措置の手段

問題解決のためにワーカーがどんな手段を用いたかを示すと次のようになる。

「面接」は持ち込まれた患者や家族の「問題を解決するために明確な意図を持って意識的に行われる話し合いである。」（メアリー・リッチモンド）と定義されている。したがって、言語を媒介にしてワーカーと患者、家族、関係者との間で、信頼関係を基礎に状況判断、援助方針の設定、措置などが行われる個別援助（ケースワーク）業務の中心的手段である。

「合同面接」とは、ケースの直接的な調整を図る目的で、ケース側（患者や家族）とワーカーに加え、院内職員や関係機関など三者以上で行われる面接をいう。

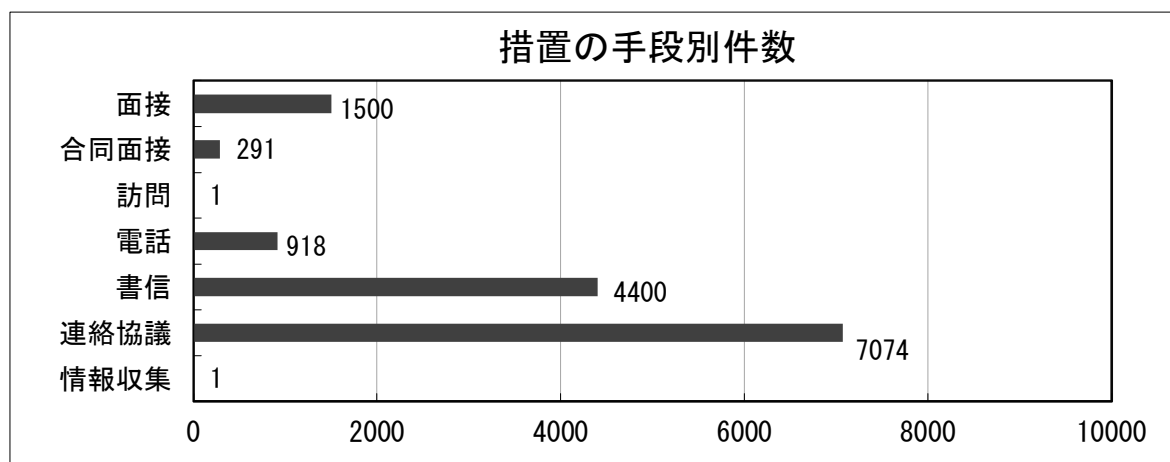
「訪問」とは、ケースの解決のためにワーカーが必要な手続きを経て、患者の家庭、勤務先、その他関係者などを訪れ、状況把握や調整行為を行うことをいい、病棟訪問など院内を歩き先とするものは含まれない。

「電話」とは、患者や家族に対して面接には至らない程度の簡単な内容伝達を電話で行うことをいう。

「書信」とは、通常概念による意志伝達手段に加えて、カルテへの記載、報告書等も含めている。

「連絡協議」とは、ワーカーから院内職員等への情報収集、問題解決に向けての協議などを指す。

2021年度の総措置件数は14185件。



	面接	合同面接	訪問	電話	書信	連絡協議	情報収集	合計
2021 年度	1500	291	1	918	4400	7074	1	14185

3) 個別援助業務以外の業務

2021 年度も個別援助（ケースワーク）業務が中心ではあったが、それ以外の業務も、以下の通り行ったので報告する。

院内外の会議やカンファレンスでは地域連携、疾患毎（がん、精神など）や、虐待など MSW の専門性を求められる領域が広がっている。

	内容分類	具体的内容	2021 年度
院内業務	常例的業務	患者サポート体制に係る相談	1060
		上記以外の相談（情報提供・問い合わせ・調整等）	856
		来客対応（福祉事務所関係者、他病院関係者等）	30
		がん相談	943
	院内会議への参加	診療・病床管理・医療社会事業・がんセンター・地域連携推進・退院調整・リハビリ等	127
		緩和ケアチームカンファ・患者サポカンファ 等	122
地域活動	関係機関等との会議	がん地域連携パス・児童虐待・小児がん等	24
	その他の地域活動	市民公開講座・医療連携交流会 等	1
		病院訪問	1
研究教育	学会・研修会等への参加	国立病院機構ソーシャルワーカー協議会・がんチーム医療 等	19
	講義・実習指導など	研修医見学 等	25
合計			3208

※常例的業務の中の患者サポート体制による相談やがん相談は、個別援助業務を除く複数回の相談を必要としない患者・家族からの直接相談ケースである。

4) がんサポート活動

がん診療連携拠点病院として、がんに関する患者活動支援、地域活動などがんサポート活動を行ったので、以下の通り報告する。新型コロナウイルスの関係で、相談会や学習会は開催中止となった。

がんサポート活動内容		2021 年度
がん治療体験者による相談会（ピアサポーター）		2 回
社会保険労務士による就労相談会		1 回
やすらぎサロン	患者、家族向け学習会（奇数月）	0 回
	やすらぎ通信	3 回
まちかど保健室	がん出張講座	4 回
緩和ケア週間イベント		1 回
合計		11 回

※「がん治療体験者による相談会」

毎月第3水曜日に外来棟1階ホールで、がん治療体験者やそのご家族が、体験からの学びを生かし、新たにがんになった患者さんやご家族をサポートするための相談会を開催している。

※「社会保険労務士による就労相談会」

がん患者さんの中には治療と就労の両立に悩みや不安を抱えている方も少なくないため、3か月に

1 回第 3 水曜日に社会保険労務士による就労相談会を開催している。

※「やすらぎサロン」

患者さんやご家族、同じ悩みを抱えている方々が語らえるやすらぎの場として平成 22 年 2 月、サービス棟 1 F 食堂横に開設。がん関連の書籍や冊子、インターネット閲覧なども出来、情報収集の場にもなっている。事務員を配置し、平日 10 時～15 時まで常時開室している。

※「まちかど保健室」

名古屋市療養サービス事業団が運営している公益事業で、地域住民に対し、保健・介護相談事業、健康づくり講座、認知症カフェを実施している。